

東京都小学校社会科研究会 研究発表会

第5学年 学年別分科会

令和 3年 2月19日(金)

令和2年度東京都小学校社会科研究会の研究

東京都小学校社会科研究会・研究発表会

令和2年度研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習を通して～

調査研究部会 2月作成

社会科学習で育てたい子供とは？

知識・技能

思考力・判断力・表現力



社会をよく見て、
様子や仕組みが
分かる子

問い
を
もち

くらべたりつなげ
たりして特色や
意味を考える子



社会の出来事を自分とつなげ、
よりよい社会づくりに
関わっていこうとする子

学びに向かう力・人間性



社会科学習で育てたい子供とは？

- ◆社会をよく見て、様子や仕組みが分かる子
- ◆くらべたりつなげたりして特色や意味を考える子
- ◆問いをもち社会の出来事を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わっていかようとする子



子供



分かる・考える



つながる



問い・関わり



社会

未来
発展

社会科学習で育てたい子供とは？

- ◆社会をよく見て、様子や仕組みが分かる子
- ◆くらべたりつなげたりして特色や意味を考える子
- ◆問いをもち社会の出来事を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わっていかようとする子



希望
責任



子供

未来を創る

分かる・考える



つながる

問い・関わり



未来
発展



社会

令和2年度東京都小学校社会科研究会の研究

どのような学びのプロセスで育成するのか？

社会とつながり未来を創る子共

主体的な問題解決

現実社会を学習
対象とする段階

いかす

【内容の取扱い】

- ◆自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること
- ◆多角的に考えて、これからの発展について、自分の考えをまとめることができるように配慮すること

切り取られた
社会を学習対象
とする段階

まとめる

調べる

つかむ

社会事象との出会い

教材の開発・分析

令和2年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

教材開発・教材分析

- 見方・考え方を働かせる教材
- 関わり方を考える教材
- 人の働きを共感的に捉えられる教材
- 東京らしい教材



令和2年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

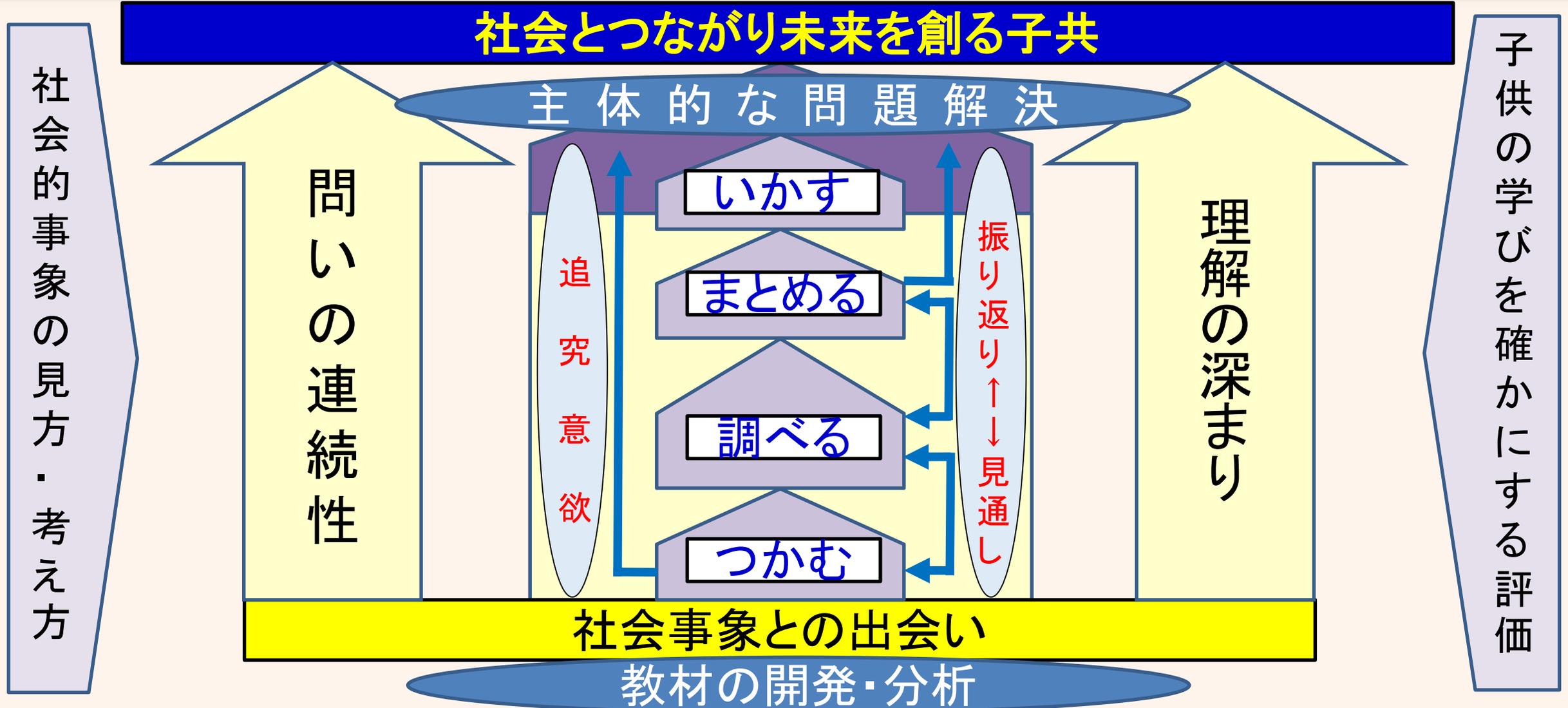
研究の重点内容

- ① 主体的に追究する問いの工夫
- ② 見方・考え方を働かせる学習活動の工夫
- ③ 子供の学びを確かにする評価の工夫



令和2年度東京都小学校社会科研究会の研究

どのような学びのプロセスで育成するのか？



社会とつながり未来を創る子共

主体的な問題解決

いかす

まとめる

調べる

つかむ

追究意欲

振り返り↑見通し↓

問いの連続性

社会的事象の見方・考え方

理解の深まり

子供の学びを確かにする評価

社会事象との出会い

教材の開発・分析

**国土や産業の様子について、国民生活との
関連を踏まえた確かな理解を基に、
社会にみられる課題を把握して多角的に考え、
我が国の未来を考えようとする子供の育成**

5年部会の目指す児童像

我が国の国土や産業の様子について国民生活との関連を踏まえた確かな理解につながる問いや、社会に見られる課題を把握して多角的に考えるための問いをもてるように、新しい教材を開発し、学習活動を工夫すれば、社会の発展についての関心が高まり、これからの社会の形成に関わっていこうとする子供が育つであろう。

5年生の社会科

児童主体の
「問題解決的な学習」の充実

我が国の国土や産業の様子について国民生活との関連を踏まえた確かな理解につながる問いの設定

児童が主体となる学習活動

土や産業の様子

多角的に考える力や
社会との関わり方を
選択・判断する力の育成

様々な立場の人たちの取組を通して多角的に考えること

現在や未来の国土や産業の発展について考えること

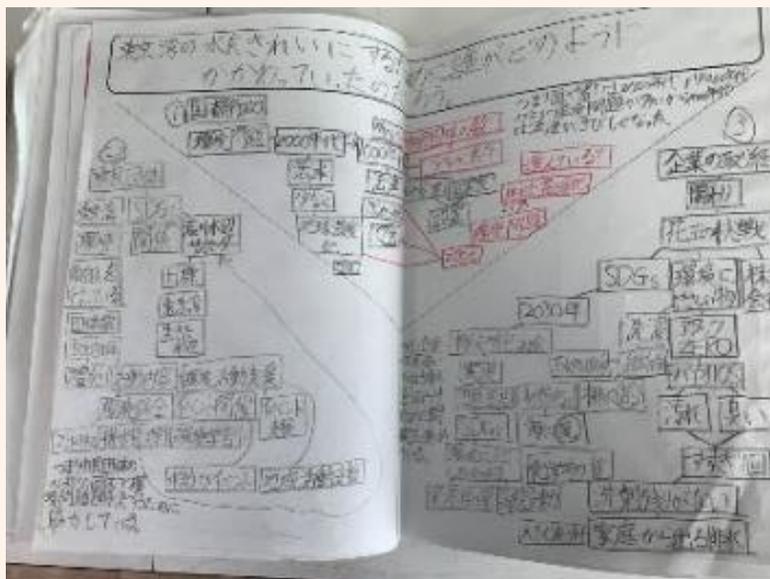
① 「主体的に追究する問いの工夫」

- ・問いの分類と連続性や構造化
- ・子供が自ら「問い」をもつための「つかむ」段階の展開の工夫

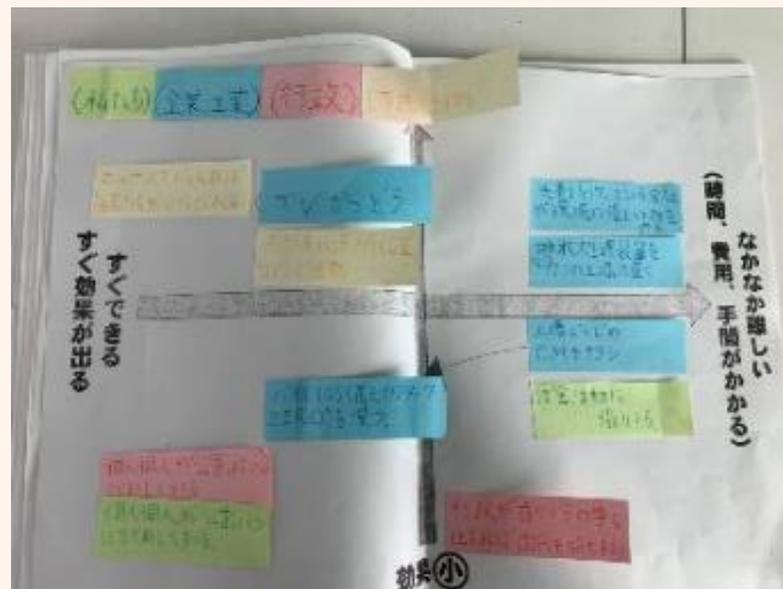
- 大単元のオリエンテーション（「情報を生かす産業」）
- 「調べる段階」で、学習計画において、調べる順番、理由、方法を明確にすることで、児童が自分の学び方を選択できる学習（「環境とわたしたち」）

②見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

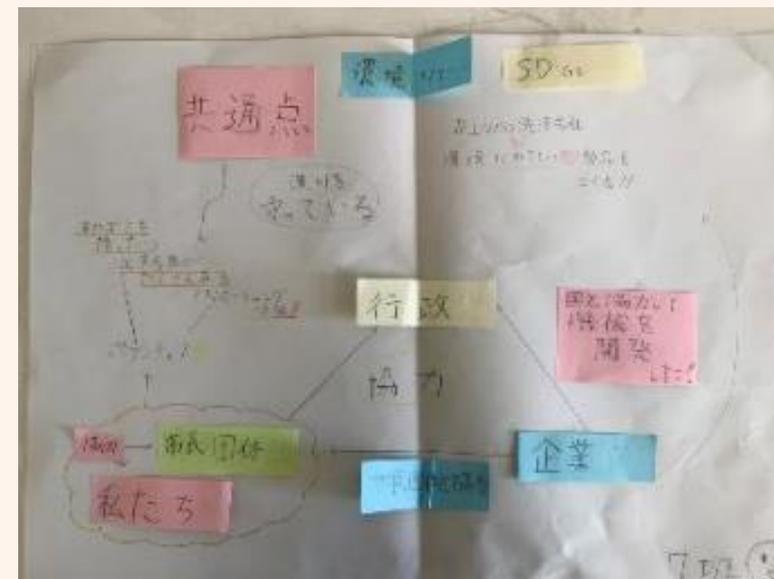
- ・比較・分類・関連付け、総合して考え表現する活動
- 図や表などに整理する



Yチャート



四象限マトリクス図



関連図

②学習活動の工夫

- ・社会のもつ課題を解決するための構想と選択・判断する学習活動の工夫



「いかす」段階
マイクロプラスチックの教材化

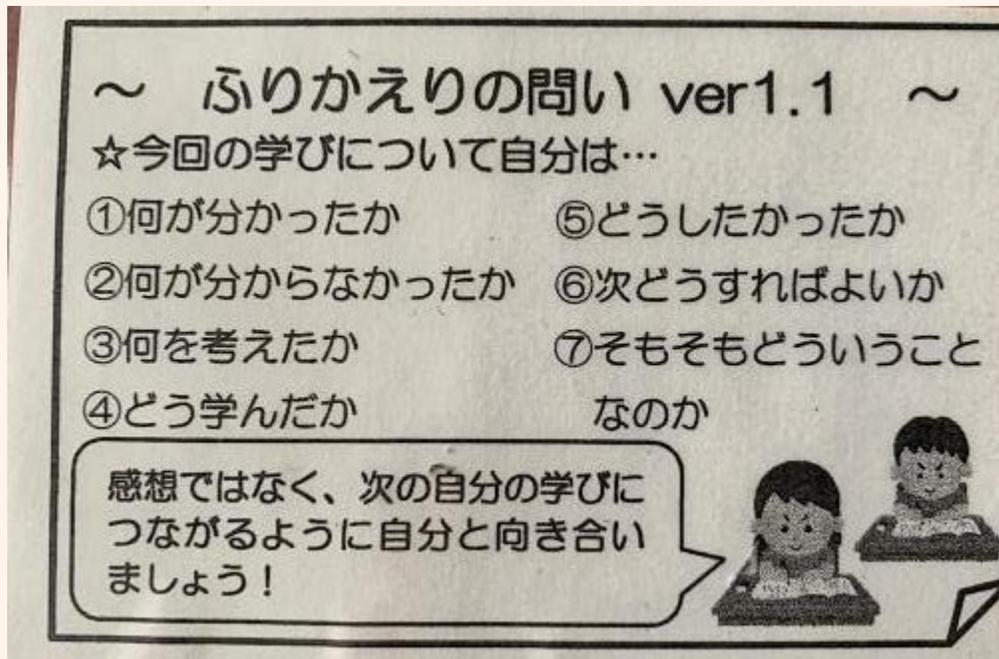


現在や未来の課題に対する
解決策について選択・判断
する学習活動

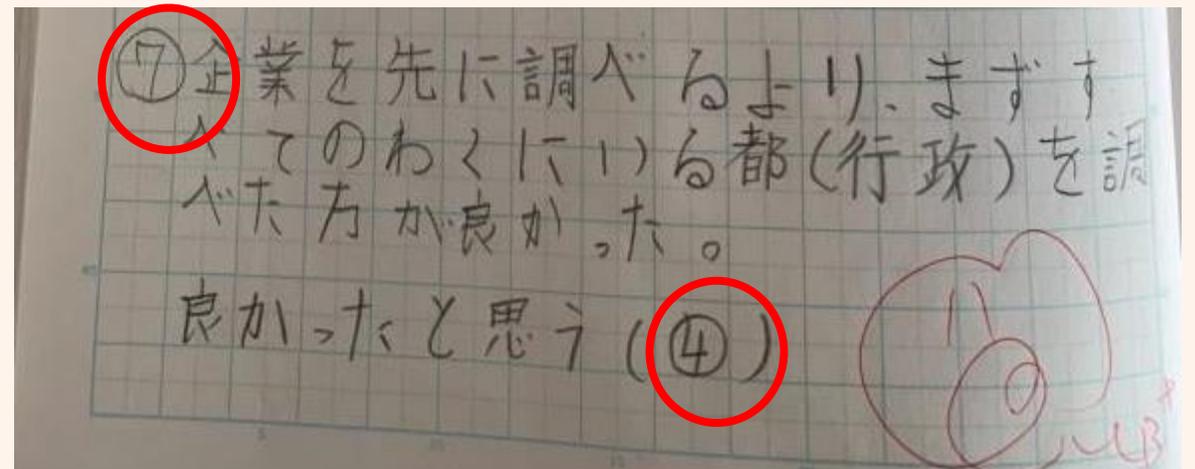
③ 「評価の工夫」

・ 学習の見通しと振り返りの工夫 (自己の学習の調整)

・ 「ふりかえりの問い」の活用



視点を明確にして、ふり返しを行っていく。



実践事例 I

情報を生かす産業（販売業）

大田区立道塚小学校

北村 仁一



本実践の手立て

①主体的に追究する問いの研究

「子供が自ら「問い」をもつための「つかむ」段階の展開や教材の工夫」

→大単元のオリエンテーションの実施

→つかむ段階において、学習の見通しをもつための情報システム図の活用

②見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

→調べる段階・まとめる段階での学習したことを整理するための
情報システム図の活用

学習計画

オリエンテーション

私たちのくらしの中の情報について知ろう。

つかむ

① コンビニエンスストアでは、昔と今を比べると、どのように変わってきたのだろうか？

② コンビニエンスストアの変化の理由について話し合い学習問題を立てよう。

③ コンビニエンスストアではどんな情報をどのように集めているのだろうか。

④⑤ コンビニエンスストアでは集めた情報をどんなことに活用しているのだろうか。

まとめる

⑥ 調べたことをもとに学習問題に対する自分の考えをまとめよう。

オリエンテーション

- ・私たちの暮らしの中における情報とメディアについて事例をもとに考えた。
- ・情報学習の前提知識として昔と今の情報技術の変化をとらえた。

社会全体で情報技術が
発展していること

→販売業における情報技術の
発展を考えるための見方・考え方

10月21日(水)
わたしたちのくらしと情報
めあて
私たちのくらしの中の
情報について知るう。
・ちらし ・セール ・CM
・テレビ ・ゲーム ・天気事
・ニュース ・歌 ・出来
・ポスター ・場所 ・映画
・回覧板 ・アニメ ・番組表
技術の発展によって
便利になっている。
カーナビは情報を活用している。
まとめ
今のふっうは技術の発展によって
今のふっうになっ たということが
分かった。スマホもパソコンも
テレビもいろいろな物が
情報を活用しているのだなと
いうことも分かった。

主体的に追究する問いの工夫

つかむ 第1時

コンビニエンスストアの変化を年表、写真、映像資料をもとに考えた。

コンビニエンスストアの年表を調べ、自社ブランド商品やサービス、商品数が大幅に増えていることからコンビニエンスストアが便利になっていることを捉えた。

Sコンビニエンスストア [のあゆみ](#)>

年	主な出来事
1974	1号店 出店(江東区豊洲店) 商品数 約100種類
1978	おにぎり販売開始
1980	店舗数 1000店
1994	大型アイスクリームケース チルドオープンケース導入
1996	カラーコピー機導入
2001	銀行ATM設置
2002	マルチコピー機を活用したチケットサービス等の取り扱い開始
2007	電子マネー「 イオン 」「 セブン 」販売スタート
2010	「 セブン 」販売開始
2011	交通系電子マネーサービス開始
2012	小型電気自動車による商品お届けサービス開始
2013	「 セブン 」販売開始
2015	「 セブン 」お買い物サイト 開始
2018	「 セブン 」開始
2020	商品数 約3000種類 店舗数21000店

つかむ 第1時

まとめ
コンビニは昔と比べ商品数や店舗数、サービスが増えるなど、とても便利になってきた。
なんでそんなにサービスしてくれるのだろう。
(コンビニは)
金は会計が早くて便利

今もまだ新しい商品やサービスを考えている人がいて、これからもっともっと便利になっていくのかなと思った。 キツイしてる!

なぜ、コンビニは便利になってきたのだろう？
なぜ、いろいろなサービスを作ったのだろう？

コンビニの情報活用について考える
第2時の疑問につながった。



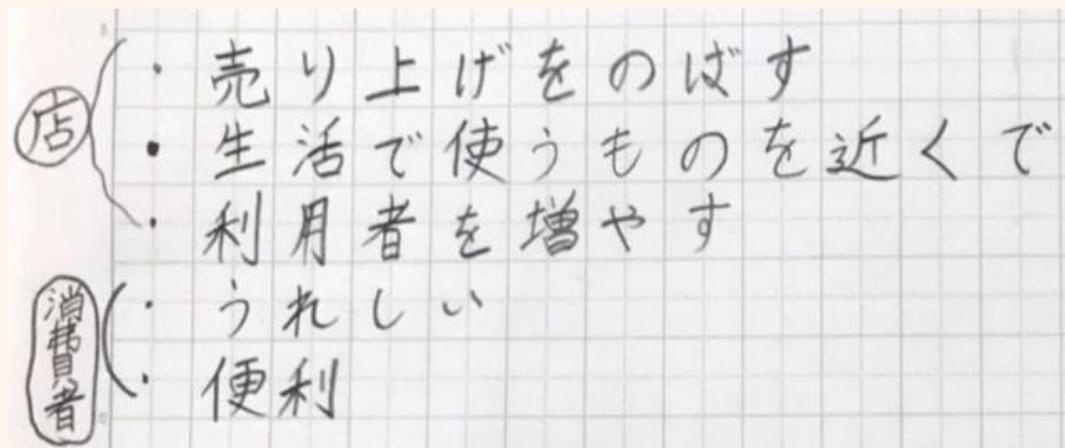
つかむ 第2時（本時）

- ・コンビニエンスストアの変化の理由について話し合い、学習問題を考えた。
- ・情報システム図を用いることで、単元を通して見通しをもって学習に取り組むことをねらった。



コンビニエンスストアの変化の理由

- なぜこういうものを作ったのだろうか？
- これは、誰が考えたのだろうか？



- アプリのクーポン
- 自社ブランド商品など

店の人かな？
本社の人かな？



(資料) Sコンビニエンスストア本部の方の話

コンビニエンスストアでは、みなさんが考えてくれたように、お客さんのことを第一に考え、進化し続けています。進化をするために、実は「情報システム」というものがあります。全国2万店舗の情報を集められるシステムです。

例えば、店舗ではお弁当を買ったお客さんの年齢、買った数などがわかるようになっていきます。

このような店舗の情報や人々の生活スタイルの変化を分析することによってお客さんのニーズに合う便利なお店をめざしています。

情報システム図



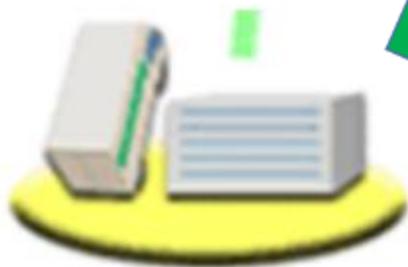
消費者 ←



コンビニエンスストア 店舗 ←



コンビニエンスストア 本部 ←



配送センター ←



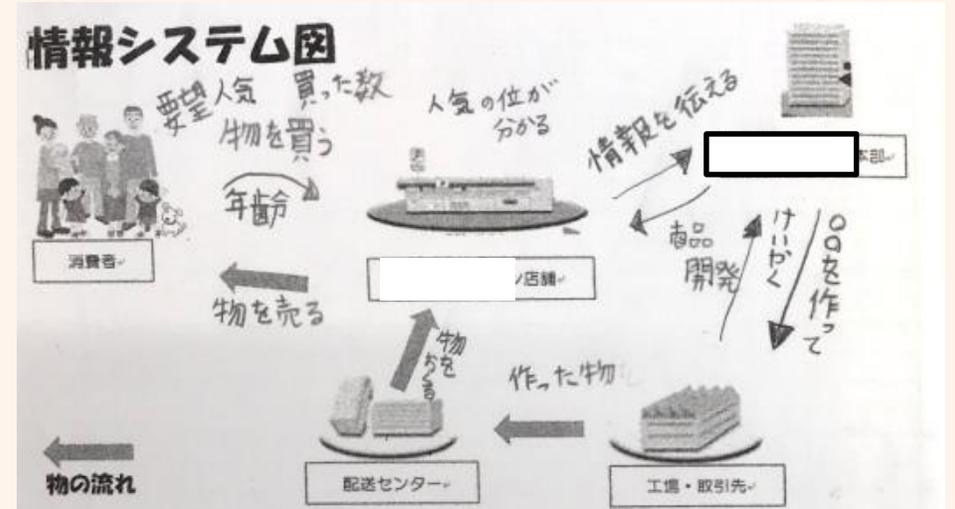
工場・取引先 ←

←
物の流れ

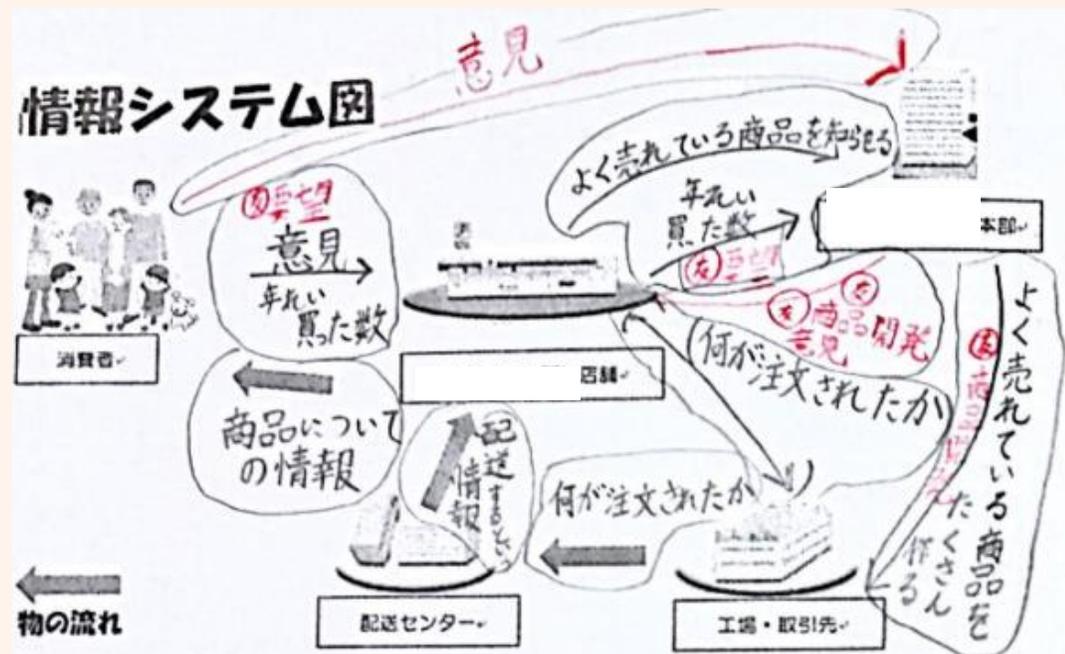


情報システム図を活用した予想

- どんな人が、どのようにつながっているかを考えさせた。



は、みなさんが考えてくれたように、お客さんのことを第一に考え、進化し続けています。進化をするために、実は「情報システム」というものがあります。全国2万店舗の情報を集められるシステムです。例えば、店舗では、お弁当を買ったお客さんの年齢、買った数などがわかるようになっていきます。このような店舗の情報や人々の生活スタイルの変化を分析することによってお客さんのニーズに合う便利なお店をめざしています。



学習問題

コンビニエンス
ストアでは、
どんな情報を
やりとりして、
改善、活用して
いるのだろうか。

学習計画

情報の流れ

どんなサービス → 活用

本部・店に聞く

ホームページ

教科書・資料

買い物

学習感想・ふり返り

情報をどんなところで使っている
か早く知りたくなりました。

調べる 第3時

コンビニエンスストアでは、
どんな情報をどのようにして
集めているかを
近隣の店舗、本部の方の話を
もとにまとめた。

1/4(水)
めあて
コンビニではどんな情報をどのよ
うに集めているのだろう。

種類

- ・ 天気・消費者がほしいもの意見
- ・ 年れい・性別・売れた商品
- ・ 地いきの情報・ポイントカード
- ・ 今日売れた品物の種類や数
- (本部←お店からの情報)・ニュース
- ・ 昨年の同じ日の売上・最近売
- れているもの・体感温度

本部

- ・ 住んでいる人、交通、天気、世の中
(お店の周辺)の動き

情報の
集め方

- ・ カード・バーコード・アプリ
- ・ 気象会社など

まとめ

コンビニでは消費者の年れいや意
見、天気などの情報をレジ、カード、アプリ
まわりの様子などから集めている。



調べる

第3時（資料）

ある日のコンビニでは、
かさがたくさん売られています。
なぜでしょう？
雨が降る予報だから



どこから情報を
手に入れたの
でしょうか。

気象情報会社から
お店ごとの天気予報を
1日5回手に入れて、
かさの在庫が
なくならない
ようにして
います。



①どんな情報を集めているか

- ・地域のイベントがいつあるか
- ・気象情報
- ・ニュース
- ・お客さんからの要望
- ・昨年と同じ日の売上
- ・最近売れているもの

②どのように集めているか



バーコード・カード
(時間 商品
買った数)

POSシステム
バーコードを読み
取り、売れた商品
や数などが自動
で記録される。

②どのように集めているか



アプリ
(買ったもの
好み)

気象会社
まちの様子を見て
本部や店の人の話



調べる 第4・5時

集めた情報を
どのように
活用している
のかを発注量
や会長の話を
もとに
まとめた。

11/1(水)

コンビニでは集めた情報をどのよ
うに活用してるのだろうか。

発注数と販売数が近い
次にどれくらい発注するか考える
ため(毎日の発注)

毎日の発注

(GOT) (ST) (POSレジスタ)
(SC) ①販売データ ②商品情報
お店のパソコンで管理・单品管理

配送

- ・今どこにいるかの情報(目で) (トラックの)
(カーナビ)
- ・時間通りとどく
- ・災害時
- ・移動販売

まとめ

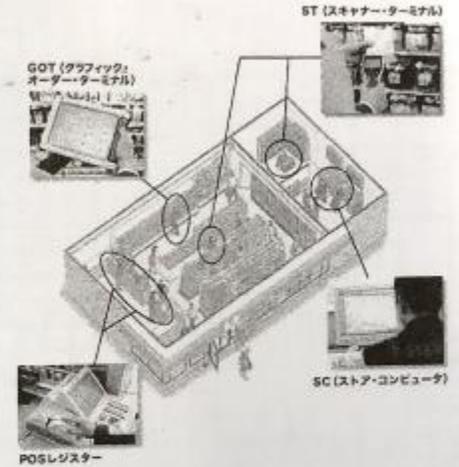
コンビニでは集めた情報を毎日の
発注や正確に配送すること、地いきの人への支えん。

災害時などに活用している。

★商品の動きを1品ずつ管理し、売れるものを発注 「单品管理」★

お客様のニーズ(思い、願い、要望)は、つねに変わり、商品の入れ替えが早くなっている時代に、
売れ続ける商品は限られています。

そのため商品1品ごとの動きを管理し、データで検証しながら次の発注の精度を高める「单品管理」という
手法に生かしています。



■GOT (グラフィック・オーダー・ターミナル)

販売データ、商品情報、天候、イベント情報などが売場で確認でき、効率的な発注作業を支援

■POSレジスター

販売データはSC (ストアコンピュータ) から本部に送信

■SC (ストア・コンピュータ)

時間帯別の販売状況、キャンペーンや放映中のCMなどの販売情報、今後の新商品などの情報、
地域の天気、イベントなどの情報を分かりやすく表示

■ST (スキャナー・ターミナル)

検品や陳列位置の登録、経度管理などに使用し、正確で効率的な商品管理を支援

調べる

第4・5時

(ノート・資料)

11月12日

コンビニでは情報をどのように分析し、商品開発に生かしているのだろうか。

セブンプレミアム 4200種類 **④改良**

情報の分析

- ・質を求める人 **④** → 低価格優先ではなく、質の高い商品「セブンゴールド」
- ・新たなニーズ **④** 新しくてよいもの

商品開発

- ・お客様の期待に応える **④** (つづける)
- ・リニューアル **④** 7回
- ・プレミアムライフ向上委員会や「セブンゴールド」向上委員会
- ・商品開発の追求 **④** 改良
- ・意見
- ④** データを参考に **④** 最高の品質
- ④** その時のニーズに合う味
- ④** さんせいも反対もきく

- ④** 開発過程の試作品
- ④** 手をむかずにやっているのでは?

まとめ

コンビニでは情報を分析することで、消費者の新たなニーズを知り、期待に応えられるような新商品の開発に生かしている。

①情報の分析について (分析をしてどんなことがわかったのかな)

販売データを分析した結果、景気が悪くても、安さだけでなく、質のよいものを求めるお客様が増えていることがわかりました。



Sさん

現代はモノが売れない時代で、誰もがあわててものを買おうとはしません。

しかし、人には、新しくてよいものを求めるという心理があります。

そこで低価格優先ではなく、上質さを求め、質の高い商品

を開発するように指示しました。

POSレジヤからのデータだけでなく、アンケート調査、実際に本部に来ていただいたインタビューなどを分析し、お客様の新たなニーズを発見することに努めています。



Sさん

②商品開発で大切にしていること

は、お客様の期待に応える「最高の品質」の実現とともに、期待に応え続けることも重視しています。

そのために、つねにお客様の購買動向などのデータや商品に対する声を参考にしながら、その時のニーズに合った味や品質にリニューアルを重ねています。

お客様の声を収集するための組織「プレミアムライフ向上委員会」や「セブンゴールド」向上委員会を立ち上げ、現在約2万人をこす会員がいます。

また、商品開発の過程でもその時々、試作品に関する意見を聞くなど、お客様の立場に立った商品開発を追求しています。発売後も、変化し続けるお客様のニーズに応えるため、売場や「向上委員会」を通じてお客様の声に耳を傾け続けています。

例えば、金のハンバーグでは、7回ものリニューアルをして、現在の「金の直火焼ハンバーグ」を販売しています。ここまでくるのに、向上委員会からの肯定的意見だけでなく、否定的な意見も多くもらうことで改良を重ねてきました。

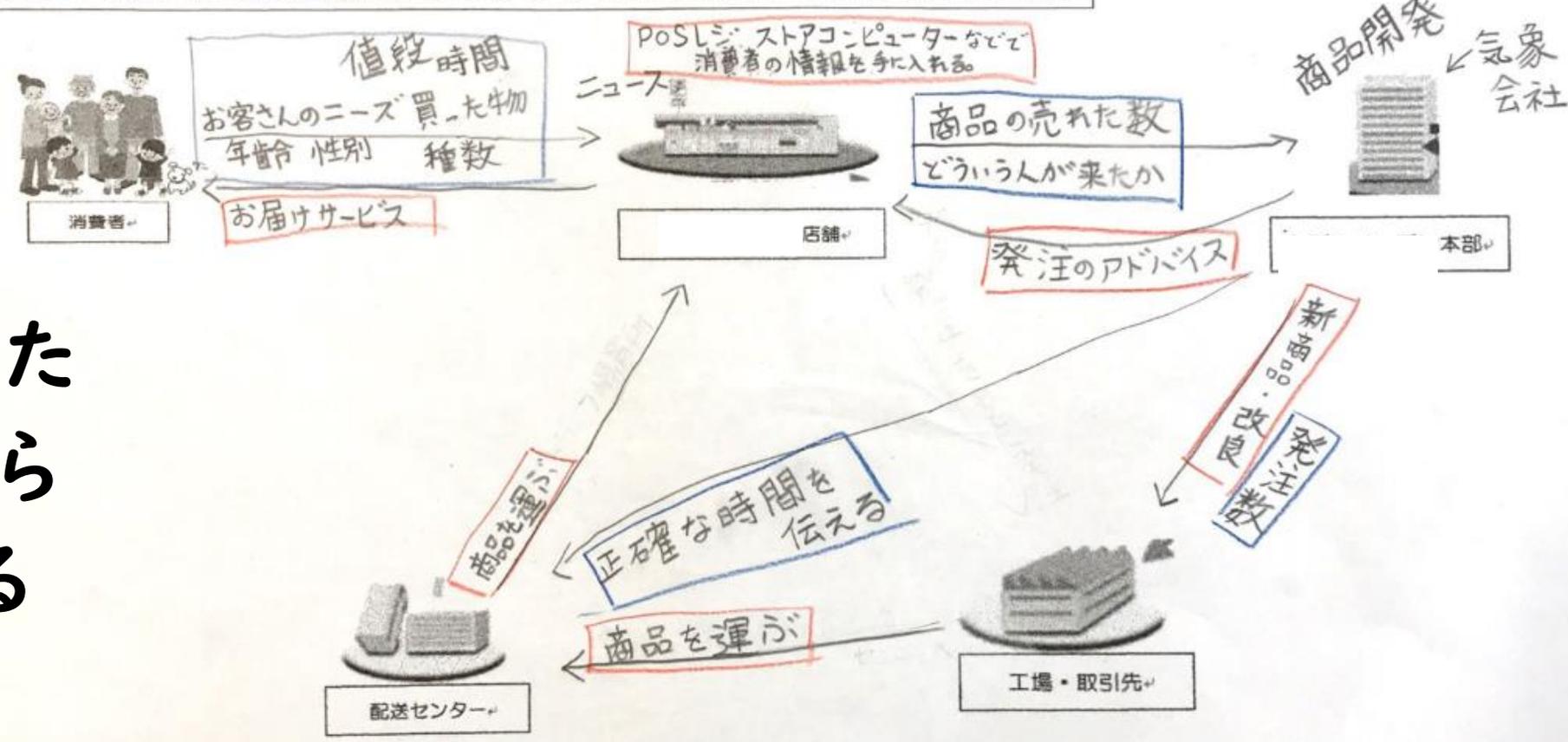


まとめる

第6時

これまで調べてきたことを想起しながら学習問題に対するまとめを行った。

学習問題 コンビニでは、どんな情報をやりとりして改善、活用しているのだろうか。



学習のまとめ コンビニでは、お客様のニーズ、年齢、性別などさまざまな情報をやりとりして、その情報を毎日の発注や、配り送、商品開発などに活用している。私は、こんかいの学習が一番好きです。コンビニは、うらで色々な商品開発などをしていてすごいと思った。セブシの金の食パンが食べたいです。

実践を終えて

成果

・オリエンテーションの実施について

情報の概念を確認すること、現在の児童にとっては当たり前の情報技術が大きく変化したこと、その技術を活用し生活が便利になっていることを捉えるきっかけとなった。

・情報システム図の活用について

「つかむ」段階では、コンビニエンスストアにおける情報の流れの全体像をつかむことに、つながりました。一方で、システム図が身近でないこともありイメージが広がっていない児童もいた。

「調べる」段階では、調べた事実を情報システム図に毎時間書き込むことで、消費者、店舗、本部、工場などが、どのような情報でつながっているのかを明確にできた。

課題

・情報システム図の活用について

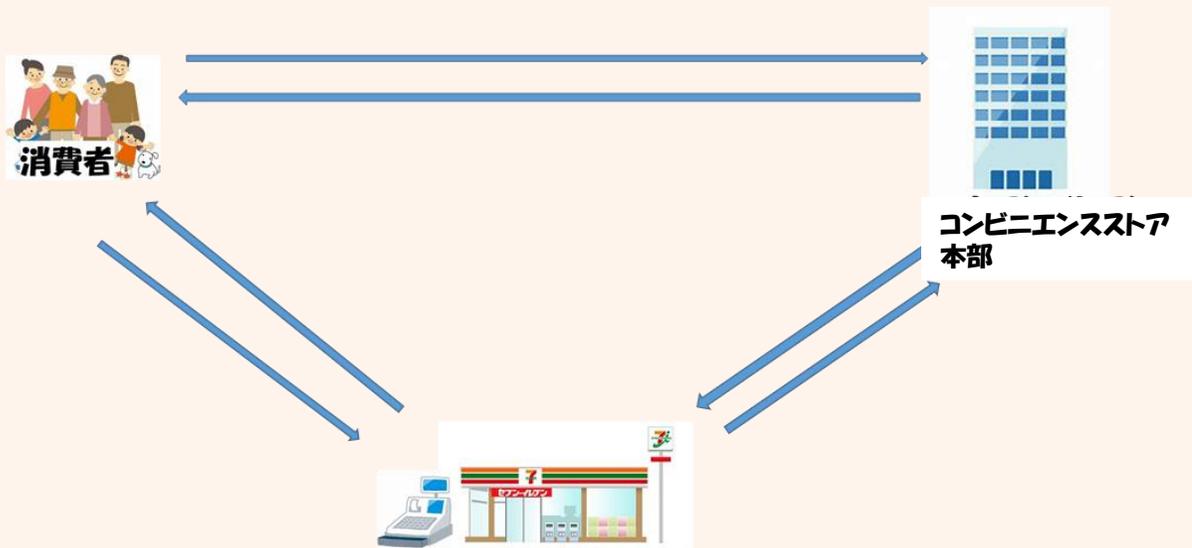
情報システム図については、教師の発問との関連をさらに吟味したり、提示するタイミングを検討したりする必要があるとわかった。具体的な商品の流れを事例にして考えさせたり、オリエンテーションの内容を受けて販売業でも情報活用をしているということを明確に理解させたりしたうえで、展開が考えられる。

○「つかむ」段階で、情報システム図を活用して、単元の学習に見通しをもてるようにすることをねらった。



児童の問題意識をもっと高めて、
学習問題をつくっていきたい!!
再チャレンジ!

実践事例 I 情報を生かす産業（販売業）



世田谷区立 深沢小学校
長谷川 実佐

【北村実践を受けて】

学習に見通しをもち、主体的に学習するために取り組めるようにする工夫

研究内容①主体的に追究する問いの工夫
『子供が自ら「問い」をもつための
「つかむ」段階の展開や教材の工夫』
について、北村実践を受けつつ、
学習の展開や教材を再度検討し、実践した。

【学習に見通しをもち、 主体的に学習に取り組めようにする工夫】 【資料の工夫】

①年表の工夫

情報機器を開発し、コンビニが情報を活用していることに気付かせるように工夫した年表の作成

②買い物動画資料の作成

子供が身近に感じ、かつ児童のコンビニに対する認識をそろえるために担任が買い物をしている動画の作成

③情報システム図の簡略化

情報システム図にはあえて消費者・店舗・本部のみと提示することで、子供たちに疑問をもたせる工夫

【学習に見通しをもち、 主体的に学習に取り組めようにする工夫】

【展開の工夫】

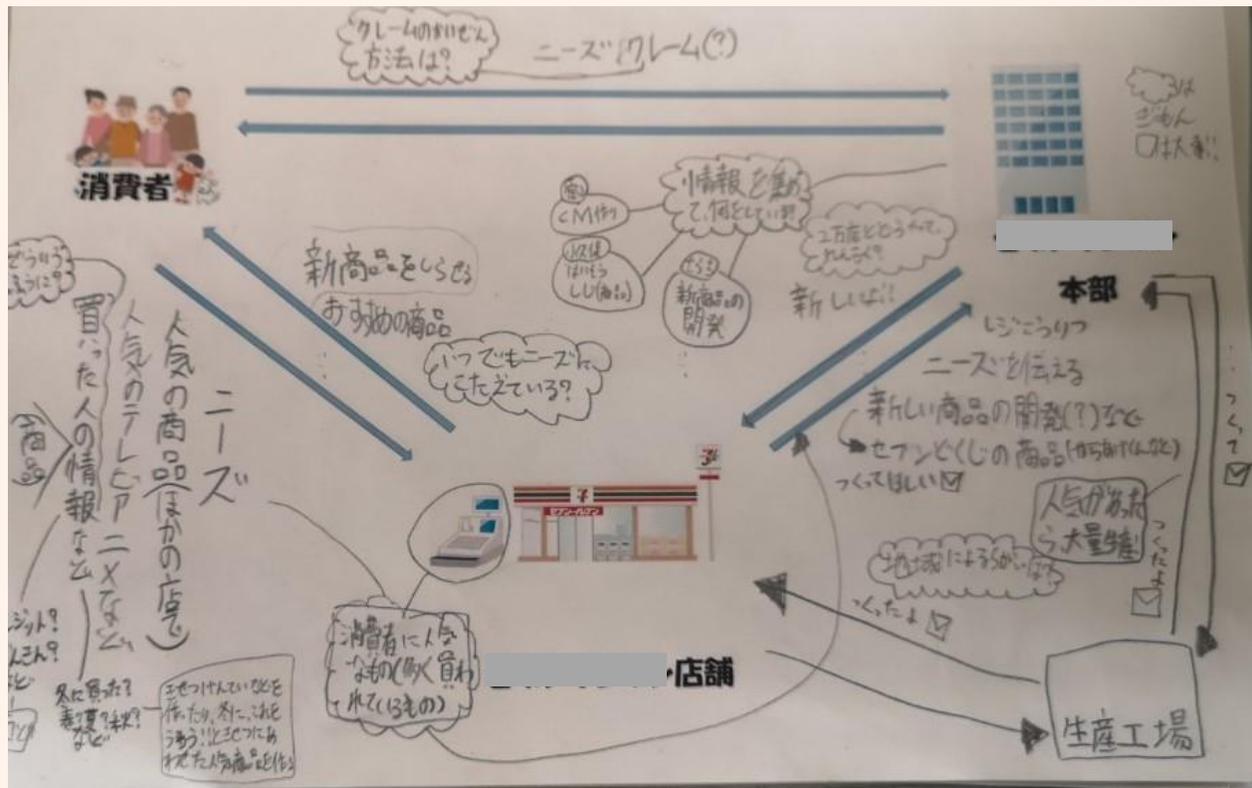
①つかむ段階で、コンビニの売り上げが伸びている事実をつかませる活動を入れたこと

②消費者のニーズに応えるために情報を活用していることが分かったところで、情報システム図を提示したこと

③学習問題を設定する段階で、情報システム図を活用することすることで、児童の疑問が明確になるようにしたこと

2時の児童の反応

【システム図を活用することで、
学習に見通しがもてた】



「どうも情報がやりとりされているようだぞ」と子供の意識が焦点化されてきたところで、システム図を活用し、この段階で分かっていることと児童の疑問を書き込むことで、学習に見通しをもつことができた。

単元を終えた児童の反応

コンビニは消費者のニーズに
えるために、情報を多くの方法で集
めて活用していた。また、他の産業と
もつながって、私たちの暮らしがより
便利になっている。他の産業も情報
を活用しているのか、どのように活用
しているのかを調べてみたい。



【A児】

【実践を終えて】

成果

年表資料や動画資料を工夫し作成したこと、システム図を簡略化したこと、システム図の提示のタイミングを工夫したことで、多くの児童が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組めた。

課題

今回の授業展開だと、学習問題を設定する前に予想と疑問が混在することになり、学習問題を見出す活動がぶれてしまう。

学習問題を設定してから予想の段階でシステム図を活用する方が児童の思考の流れに合っているのではないか。



本実践のポイント

- ★公害の昔と今をとらえて、海洋プラスチック問題への取組に対して、「自分ができること」を選択・判断していく学習活動
- ★ふり返りの視点を生かした自己の学習調整



つかむ

第1・2時

【問い】

日本では、どのような公害が
起こっていたのだろうか

【問い】

東京湾では、1972年以降
はどうなったのだろう
→海水浴が復活した東京湾

学習問題

東京湾の水をきれいにするために、誰が、どのようなことを
したのだろうか

学習計画

東京湾の水質をきれいにするための
・国や東京都の取組 ・工場など企業の取組 ・市民の取組

調べる

第3時

【問い】

国や東京都は、何をしてきたのだろうか。



【考え】

国が法律を定め、計画を策定し、予算化して事業を進めた。東京都は、下水道などのインフラ整備を進めた。

第4時

【問い】

工場などの企業は何をしてきたのだろうか。



【考え】

企業は行政の定める法律を守り、環境に配慮した製品を開発して、環境保全への対策を行っている。

第5時

【問い】

市民は何をしてきたのだろうか。



【考え】

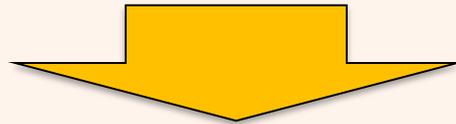
市民団体が水をきれいにする活動や、東京湾の海に親しむ活動が進められており、わたしたちの生活をより豊かにしてくれている。

まとめる

学習問題に対する自分の考え

【問い】

それぞれは、どのようにつながっているのだろう。



関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきた。国土の環境保全の取組は、国民の健康な生活を守ることにつながっている。



いかす

昔

東京湾の水質問題
工業による公害

今

海洋プラスチックの問題
生活排水による公害

第7時

【問い】

海洋プラスチックは、
海にどんな被害を与
えるのだろう。

現在・未来に向けて、
解決しなくてはいいな
い課題との出会い

第8時

【問い】

海洋プラスチックに対
して、誰がどのような
対策を取っているの
だろう。

過去の公害の学習で調べ
た立場（行政・企業・
市民）の取組を調べる

第9時

【問い】

海洋プラスチック問題
に対し、私たちはこれ
からどのようにかかわ
ればよいのだろう。

課題解決に向けて、大
切なことや大事なこと
を選択・判断する

いかす

第7時

【問い】

海洋プラスチックは、海にどんな被害を与えるのだろうか。



【考え】

私は、海洋プラスチックの問題を解決するのは、正直難しいと思う。海の環境を守るためには、プラスチックを使わない方がいいけれど、便利な生活を送る私たちが、全てをやめることは難しいから。しかし、何もしないわけにはいかないから、公害の時のように、行政や企業も何かしているのではないかと思う。

第8時

【問い】

海洋プラスチックに対して、誰がどのような対策を取っているのだろうか。



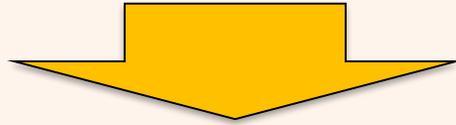
【考え】

公害の時と同じように、行政や企業、市民が協力して、新しい課題を解決しようと取り組んでいる。自分たちにはなにができるのだろうか。

いかす

第9時

海洋プラスチック問題に対し、私たちはこれからどのように
かかわればよいのだろう。



【考え】

この海洋プラスチック問題も、便利さだけを求めていると将来取り戻すことができなくなる。だから、世界中のみんながやれば効果は大きいと思うので、みんなが不要なプラスチックを使わないようにすればいいと思う。



ちなみに、2月4日に行われた同じ単元での研究
授業（小金井第一小 笠原 駿先生）では・・・

学習問題：東京湾の水をきれいにするために、誰がどのようなことをしたのだろう。←

問い：国や東京都は何をしてきたのだろう。←

- ・どのような仕組みや工夫をしたのだろうか？←
- ・苦労することや困っていることは何か？←

問い：企業は、何をしてきたのだろう。←

- ・企業はどんな工夫をしているのだろうか？←
- ・なぜ企業の協力が必要なのだろうか？←

問い：市民団体は、何をしてきたのだろう。←

- ・どのような市民団体があり、何をしているか？←
- ・どんな課題があるのだろうか？←

問い：それぞれはどうつながっているのだろう。

より主体的に学習が進められる
社会科授業を目指して

「調べる」段階の第3時～第5時を見童の問題意識に応じて進められるようにした。
調べる順序、資料、方法に選択の幅をもたせ、学び方を見童に委ねる場面をつくった。

1

教師が教材研究の段階で
「**問いの構成図**」を基に授業を構
想することで、児童の思考（問い
と自分の考え）の連続性をもたせ
やすくなった。

2

「児童に学び方を委ねる」社会科授業を
実現するための視点が明確になってきた。

- ・学習問題を立てるまでに児童の問題意識を
高めること（魅力的な教材開発、学習展開）
- ・様々な思考ツールの活用、教師の学びの環境
整備
- ・「ふり返り」を活用した自己の学習調整

3

振り返りの視点をしっかりと示して考えさせることで、児童一人一人の学びの追究に活用できることが捉えられた。

今年度の研究の課題

- 情報単元の学習の情報量の多さ、複雑さを整理して、児童がよりシンプルに思考できるように授業をデザインできるようにしたい。
- 「児童に学びを委ねる」社会科の授業を目指して、小単元ごとにどのような展開や指導法が考えられるのか検証していく。
- 「ふり返りの問い」について、児童の記述を分析して有効性を明らかにしたい。

END

ありがとうございました。